

## 石川県犀川水系におけるナガレタゴガエルの新記録

戸田光彦\*

Mitsuhiko TODA\* : A New Record of the Stream Brown Frog, *Rana sakuraii*, in Saigawa River System, Ishikawa Prefecture

ABSTRACT : A female of the stream brown frog, *Rana sakuraii*, was collected in Kuratani stream (390 m above sea level) of Saigawa river system on 26 April 1992. This record was confirmed as the second locality of the species in Hokuriku District.

Key words : *Rana sakuraii*, Ishikawa Prefecture, Saigawa river system.

## はじめに

ナガレタゴガエル *Rana sakuraii* は1978年に東京都で発見され(松井1982), 1990年に記載されたアカガエル科の種である。本種はタゴガエル *R. tagoi* と姉妹種の関係にあるとされ, 外部形態はタゴガエルに類似するが, 後肢のみずかきがよく発達することなどで区別できる (Matsui & Matsui 1990)。早春に溪流の水中で繁殖し, 抱接したつがいが流下しながら産卵場所を探すという, 特異な生態を持つことが知られている(草野・福山1987)。日本特産種と考えられ, 現在のところ関東・中部・北陸・近畿の各地方で見つがっているが, 既知の産地は不連続である(前田・松井1989)。石川県においては, 手取川の支流, 雄谷の標高700~800mの地点のみから知られていたが (Matsui & Matsui 1990), 今回, 別の水系である犀川の上流部で1個体が採集されたので報告する。なお本稿作成の上でお世話になった宮崎光二氏, 石井信夫氏, 現地採集を手伝って下さった岡田敏氏には厚く感謝の意を表します。

## 発見の状況

1992年4月26日の14時30分, 犀川上流の倉谷において1個体のナガレタゴガエルを採集した。溪流の岸辺に立ったところ, 足元の転石の下から茶褐色のカエルが泳ぎ出したので採集した。この個体はタゴガエルによく似ていたが, 後肢のみずかきが発達していたことから本種と同定した。この個体は雌成体であり, 体側の皮膚にはいくらかの伸張が見られた。また解剖の結果, 卵巣内や輸卵管内に熟卵は見られなかった。固定前の右後肢腹面を図に, ホルマリン固定後の外部計測値を表に示す。この個体が採集された地点は, 高三郎山登山道と倉谷が分岐する場所の倉谷本流側であり, 北緯36° 24', 東経136° 46', 海拔標高390mであった。付近の雪解けはほぼ

\*〒113 東京都文京区湯島2-29-3 財団法人自然環境研究センター Japan Wildlife Research Center, Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo 113, Japan.

終了しており、溪流の水量はかなり多かった。また周囲の現存植生は落葉広葉樹林であった。

Table 1. Measurements of the female *Rana sakuraii* (after fixation)

Snout-Vent L. (mm)	Head Width (mm)	Hand & Arm L. (mm)		Tibia L. (mm)		Body Weight (g)
		left	right	left	right	
54.1	18.7	22.4	22.7	28.7	29.0	14.1

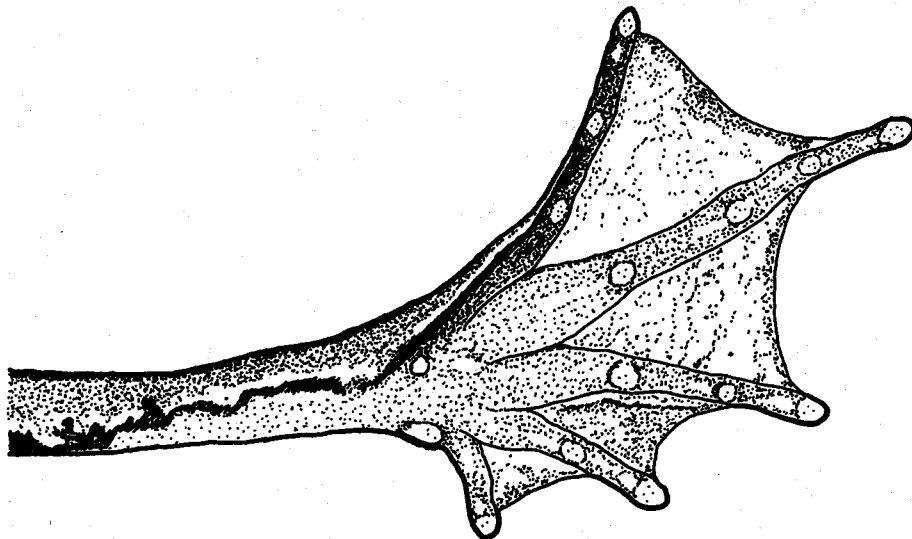


Fig. 1. Ventral view of right foot of the female *Rana sakuraii* (before fixation). Bar : 10 mm.

### 考 察

東京都における本種の生態調査によれば、成体は溪流の水底で越冬し、2～3月頃に水温が約4℃まで上昇すると繁殖を開始し、10日間から1ヶ月程度の繁殖活動を続ける (Kusano & Fukuyama 1989)。繁殖を終えた個体はしばらく岸辺の石の下などに滞在し、やがて上陸する (草野・福山 1987)。今回本種を発見した場所の水温は測定していないが、採集時期と解剖結果を考慮すると、この個体は既に産卵を終え、溪流から分散する前のものであったと推測される。

今回新たに発見された産地は、Matsui & Matsui (1990) により報告された手取川水系の産地から約13km北側に位置していた。北陸地方における本種の確実な産地は、今のところこの2例しか知られていない。本種はまだ寒い早春に山間の溪流で産卵し、繁殖期においても陸上からは鳴き声を聞くことができないため (草野 1990)、人目に付き難い。また、非繁殖期においてはタゴガエルと混同され、見過ごされてきたことも考えられる。これらの理由から、未だに確認されていない本種の産地が他にもあるとみなされ、早春に溪流沿いを調査することにより、

各地で新産地が見つかるものと考えられる。

## 文 献

- 草野 保. 1990. 厳しい自然に身をまかせ—清流に潜むナガレタゴガエル—. アニマ 213 : 39-43. 平凡社.
- ・福山欣司. 1987. 東京都五日市町盆堀川における仮称ナガレタゴガエルの体の大きさと繁殖活動. 爬虫両棲類学雑誌12 : 65-71.
- Kusano, T. & K. Fukuyama. 1989. Breeding activity of a stream-breeding frog (*Rana* sp.). pp. 314-322. In : Matsui, M., T. Hikida & R. C. Goris (eds.), Current Herpetology in East Asia. Herpetol. Soc. Japan.
- 前田憲男・松井正文. 1989. 日本カエル図鑑. 文一総合出版.
- 松井孝爾. 1982. 新種「ナガレタゴガエル」を発見! アニマ 111 : 12-18. 平凡社.
- Matsui, T. & M. Matsui. 1990. A new brown frog (genus *Rana*) from Honshu, Japan. Herpetologica 46 : 78-85.